



大阪早稲田倶楽部 NEWS

エベレスト初登頂の 松浦さん講演会

昭和45年(1970年)に日本人として初めてエベレスト山(8848m)登頂に成功した松浦輝夫さん(79歳)(昭和32年教育卒、山岳部OB、大阪市西区在住)の講演会が昨年11月1日、早稲田摂陵高(茨木市)で開かれ、同校生徒や稲門の校友、地域の人たち約600人が聴講した。



松浦さんは大阪市出身で、昭和45年、日本山岳エベレスト登山隊に参加し、植村直己隊長とともに登頂に成功した。昭和56年には早稲田大学K2(8611m)登山隊の隊長を務め、2人の隊員が初登頂を成し遂げた。この日は「ヒマラヤ登山から得たもの」と題し、今とは比較にならないほどの重装備と未開拓のルートのほか、国の威信をかけて頂上を目指したことを熱く語り、氷と岩の極限の世界への挑戦は多くの人の力が結集できてこそ実現できたことを強調し、「頂上に達したときは感激と同時に支えてくれた仲間への感謝の気持ちでいっぱいだった」と42年前を振り返った。生徒たちは挑戦する気概と仲間を信頼し、支え合う素晴らしさを講演から学んだようだ。

今回の講演会は、地域への貢献、社会への発信を活動の一つに掲げる校友会大阪府支部の事業の一環で、同校との共催で企画。同校は早稲田公開講座と位置づけ、地域の人たちに広く参加を呼び掛けた。

ロンドン五輪出場の 江里口選手 熱弁



12年度校友会総会

校友会大阪府支部の2012年度定期総会が11月1日(木)、大阪新阪急ホテルで開催された。大学本部から鎌田薫総長らを迎え、約160人の校友らが出席した。

総会に先立ち、ロンドン五輪の男子400Mリレーで決勝5位に輝いた江里口匡史選手(11年スポーツ科学部卒、大阪ガス)の報告会があり、早稲田で学んだ4年間で大きな力になったことや次のリオ五輪に向けて全力を尽くすことなどを熱弁。拍手喝采を浴びた。

続いて早稲田摂陵高吹奏楽コーラスのウインドバンドのOGでつくる「みつばち会」の演奏があり、校友だけでなくこの日開催の早稲田域交流フォーラムに参加の一般の方々を楽しませた。

このあと、鎌田総長が「いま伝えたい、早稲田の力」と題して講演。20年後の創立150周年に向けて新たなビジョンで早稲田の力を上げていくことを話された。

総会では11年度決算や12年度予算などを審議し、大学及び地域社会の発展に寄与することなどの12年度活動計画を承認した。

青年部クリスマスマスの集い

12月8日、青年部のクリスマスパーティーに参加しました。1年前、友人の誘いで大阪早稲田倶楽部の新年会に参加させていただいたことがきっかけで、青年部に入会しました。この1年間で多くの方と知り合い、日常とはまた違った時間を過ごしています。

今回はそんな1年を締めくくると少しいクリスマスパーティーでしたが、この日はこの1年でお世話になった方々また新たに出会った方々とクリスマスにふさわしい温かい時間を過ごせました。その日は会場のビルはお休みのため入り口が封鎖された状態でしたが、会場レストランのシエラが自ら「早稲田スケジュール」

スケジュール

- 史談会 *会場：新阪急ホテル(12月は別会場)
- 3月21日 御堂筋の歴史と文化
- 4月11日 大阪の歴史と文化
- 5月9日 日本の中国地方の建築探訪
- 6月13日 美術館建築を訪ねて
- 7月11日 大学の有名建築あれこれ
- 9月12日 建築様式の変遷(神社編)
- 10月10日 建築様式の変遷(寺社編)
- 11月14日 ものづくりの原点―匠の伝統的精神(木工棟梁西岡常一にみる)
- 12月12日 村野藤吾の作品と早大OBの建築家たち
- 食へ歩き会
- 6月15日 堺のあなご(松井泉)
- 9月7日 玉出のお好み焼き(象屋)
- 11月16日 丹波の牡丹鍋(未定)
- ゴルフ
- 6月1日 早慶戦(飛鳥カンツリー倶楽部)
- 9月7日 校友会コンペ(よみうりゴルフ場)

稲田青年部の方と書かれた看板を持って寒いエントランスで会場の案内をしていただいたことも印象的でした。大阪早稲田倶楽部の集まりでは、OB、OGの方々のその時間を楽しむことはもちろんのこと、それ以外にも早稲田倶楽部の方々の日頃の繋がりによって日常味わえないようなサプライズが毎回あります。

それは、「ここが大阪で早稲田による様々な出会いを生み出してくれるから」と思っています。大阪中之島で最高のシーフードを食しながら、大阪早稲田倶楽部青年部がまた深まりました。

近藤未来(平17年人間科学)

倶楽部・校友会の合同新年会

大阪早稲田倶楽部と校友会大阪府支部の合同新年会が1月12日、上本町のシエラトンホテル大阪で開かれ、88人が参加した。冒頭、挨拶に立った角和夫・校友会大阪府支部長は「安倍新政権で景気浮揚の機運が高まり、輝かしい新年を迎えられました。関西も稲門のみならずもいつそう良い年でありませう」と抱負を述べ、人見亨・倶楽部会長の首頭で乾杯した。

着物姿の艶やかな女性も先輩らとにこやかに歓談。新年にふさわしい華やかな雰囲気にも包まれた。野村公平・倶楽部理事長の中締め挨拶のあと、恒例の校歌斉唱でお開きとなったが、続いてホテル内のバーに移り、名残りが尽きなかった。

恒例 新春文楽鑑賞会

新春の文楽鑑賞会が1月12日日本橋の国立文楽劇場で開かれた。倶楽部と校友会大阪府支部の共催で、今回で3回目。参加は77人を数え、すっかり定着した。公演鑑賞に先立ち、文楽の裏舞台を知る特別企画として人形と三味線についての解説会も開かれた。解説会では、吉田清五郎さんが顔の表情や手足の動き方などを人形を手に実演。所作ひとつで喜怒哀楽を表現する人形の奥深さをわかりやすく説明した。三味線は竹澤宗助さんが他の三味線との違いや音の醸し出す情感などについて実演



ベテランの技で人形を操る

おしらせ

大阪早稲田倶楽部祭

■4月6日(土) 12:00~13:30 玉造稲荷神社社会館(中央区玉造2)
新入会員歓迎会を兼ねています。14:00から大阪城「早稲田の森」見学へ
会費5,000円(新入会員は無料。会員家族は2,500円)。申し込みは事務局へ

大阪早稲田倶楽部総会

■5月16日(木) 18:00 大阪新阪急ホテル

大阪早稲田倶楽部 早稲田大学校友会大阪府支部



摩耶山周遊 〜残暑の中に涼を求めて〜



穂高湖

歩ける谷筋の桜谷道・シエール道・穂高湖・アゴ二坂の周遊コースに急遽変更した。桜谷道は歩き易く小さな流れを見ながら快調に下る。それでもこの谷はぶつづけ本番のため、3回ルートの間違えウロウロしてご迷惑をお掛けした。そのうちに皆さんは基本的な疑問に気が付いた。「快調に下るのは良いが、今日は周遊コースなので下った分だけ登るはずだ。一体何メートル下るのか?」「はい、280mです。」



9月29日、参加13名
残暑の中では登りはケープル等を利用し、樹木に覆われて水が流れる涼しい谷筋を下るのが好都合。選んだコースは摩耶ケープルとロープウェイを乗り継いで摩耶山上に行き、樹木が密生した袖谷を下る深山幽谷の雰囲気を楽しむコースです。

午後5時の降水確率が50%となり、雨の中でも安全に歩ける谷筋の桜谷道。これは遊歩道のように整備されたシエール道を、渓流を楽しむながら布引谷源流の穂高湖まで登り静かな山の雰囲気を味わう。灘温泉で汗を流し、パナダ飯店では3ヶ月振りの懇親会。今回はデザート杏仁豆腐を団体記録12杯、個人記録4杯の記録を樹立した。

初富士登山(有馬富士)



1月19日、参加10名
初富士登山3年目は有馬富士です。高さは374mと低くても、その均整のとれた山容を福島大池に映している姿は一幅の絵になります。

てくてくハイキング

郷土富士にはその姿を見ると成程と感じる山から、どうしてこれが富士山?と思われる山もありますが、地元の人々の親しみと愛情が籠っていますので素直に賛同しましょう。

JR新三田駅に集合して寒さで縮んだ体をストレッチで伸ばして出発。行基が作ったと言われる福島大池には簡単に着いて、水面に映る有馬富士の綺麗な姿を楽しんで写真を撮る。



福島大池と有馬富士

池には鴨が多く、下見の時に餌が欲しそうに集まって来ていたので、パンの耳を細かく切ったのを投げ与える。池の半分は氷結しており、メンバーの一人が氷の上で撒いたら面白く言うので移動して、氷の上に餌を投げると足を滑らせながら争って食べる様子が滑稽で

あつたが、鴨には少し可哀想なことをした。鴨さんごめんなさい。

頂上への道は舗装された自動車も通れる立派な遊歩道。傾斜も緩やかで難なく千丈寺湖への分岐着。頂上まであと10分であるが、急な斜面を直登するこの10分が難関。

〜紅葉の里で義経鍋〜



←義経鍋の5種の肉のアラカルト

食べ歩き

グルメの旅は12月1日に奈良・桜井の談山神社へ。紅葉も終わりかけたが、それでも神社を囲む山々や谷の色づきは見事、やはり名所として多くの人々をいざなうだけのことはある。そして、この日は神社に着くやいなや時雨はじめ、それが程なくして曇(みぞれ)に変わり、雪(ひよこ)に変わり、紅葉の赤、黄色と雪の白のコントラストが風情たっぷりだった。

丸。メニューはホテルの名物「義経鍋」。源義経が吉野山へ落ちのびる際に、この地で食したということだ。真ん中に丸い鉄鍋があつてそれを5つの花びらのような鉄板が囲んでいる変わった形の鍋だ。上から見ると梅の花のような感じか。真ん中の丸鍋には白菜やニンジン、椎茸、ミツバなど地元産の野菜を入れ、花びらにあたる鉄板で肉を焼いて食す。鴨に牛、豚、鶏、鵜(うずら)の5種。鉄板は傾斜して、ほどよく脂が落ち



師走でも談山神社の紅葉は鮮やか

るようになっており、パーベキューみたいにジューズと焼いてポン酢や特製だれでパクリと。結構量があるなと思っただけ、何が何だ。どれも柔らかくて、すすいと進んで完食。

〜ススキの原で秋を堪能〜

曾爾高原をあとにし、奥香落山荘へ。沢の鶴が経営している温泉宿だ。メインの食事。山奥の渓流にしか住まずの岩魚

食べ歩き

奈良県曾爾(そに)高原。私にとっては初めて聞く地名だ。三重県との県境にあり、日本で最も美しい村(連合)に加盟している曾爾村。楽しみに迎えた10月6日の食べ歩き会だ。

20人が参加。貸切バスの道中では北原仁巳さんに学校では学べなかった歴史や曾爾、室生寺についての解説をしていただいた。高原なので涼しいかと思いきや日の光を背に浴びると少し暑いくらいで思わず半袖に。ススキは一面に広がり、銀色の穂が風に揺れ見事な風景だ。

と、ゴールの花山乃湯が見えて自然とペースが速まる。バスの本数が少ないので時間が十分あり、ゆったりと温泉を楽しむ。懇親会は宝塚でここにして途中下車して珉珉で実施。パンダ飯店とは微妙に違う中華料理の味を楽しむ。



藤本竜太(平12年教育)